

# 八戸工業大学 同窓会報

第8号  
 3月・9月発行  
 八戸工業大学  
 同窓会本部事務局  
 TEL:0178-25-8027  
 FAX:0178-25-6183

## シビル会（土木同窓会） & 拓北会（建築同窓会） ～ 設立二十五周年記念事業 ～



五月二十八日、八戸グラ  
 ンドホテルを会場に同窓生  
 一百五十人と多数の教職員が参  
 加し、「同窓生の集う会」が  
 開催された。

五月二十八日、八戸グラ  
 ードホテルのタイトルは、  
 フォーラムのタイトルは、  
 工学科五十五年卒の小野寺一  
 彦氏（有）設計工房アーバ  
 ンハウス、土木六十二年卒  
 卒業生が務めた。フォーラム  
 新都市建設公社）の三名が卒  
 業後の貴重な経験談などを披  
 露、地域に根ざすということ  
 はどうということかについて、  
 熱のこもった意見が述べられ  
 た。引き続き行われた「集う  
 会」では、種々

歌志内市市議会議員）、建築  
 「八戸でいがったべ〜二十一  
 世紀における地域密着・地域  
 活性化」、パネラーは全員  
 の大越正之氏（財）東京都

会」では、種々のイベントが企  
 画され、目玉の  
 ビンゴ大会が始  
 まると、会場は  
 歓声と熱気に包  
 まれていた。多  
 くの卒業生か  
 ら「楽しかった。  
 またぜひ来て  
 たい！」という  
 声がかかるなど、  
 同窓生たちは  
 互いに旧交を  
 温め合ったり教  
 職員と和やかに  
 歓談したり、有  
 意義な時間を過  
 ごしていた。

### 東北・北海道・秋田支部総会

#### 北海道支部

六月十一日、札幌市エクセル東  
 急ホテルにおいて第三回北海道支  
 部総会が開催され、同窓生および  
 大学教職員あわせて四十名を超え  
 る参加がありました。

永田支部長より北海道支部は  
 会員数も多くエリアも広いことか  
 ら、よりきめ細かな活動を展開し  
 会員へのさらなるサービス向上の  
 ために、「道東分会（十勝会）」に  
 続いて「道南分会」を下部組織  
 として発足させる旨の提案がなさ  
 れ、了承されました。なお、来年  
 度（第四回）



の支部総会  
 は五月十三  
 日（土）に  
 開催される  
 予定です。  
 多くの同窓  
 会会員の参  
 加を心より  
 お待ちして  
 います。

#### 東北支部

七月十六日、宮城県仙台市青葉  
 区ホテルリッチフィールド仙台に  
 おいて東北支部総会が開催されま  
 した。

第一部の講演会では、仙台市交  
 通局東西線建設本部部長の高橋  
 秀道さんによる仙台市地下鉄東西  
 線建設工事に関する講演が行われ



ました。これからの仙台市の交通  
 には欠かせない非常に重要なプロ  
 ジェクトであるということを楽し  
 されておりました。

第二部の懇親会では、東北支部  
 が企画したイベントが行われまし  
 た。ビンゴ大会、じゃんけん大会  
 とともに同窓生たち全員が和気あい  
 あいと楽しい時間  
 をすごしました。  
 八戸より参加され  
 た教員などと、久  
 しぶりに顔をあわ  
 せた同窓生が、旧  
 交を深めた場とな  
 りました。また、  
 地域情報メディア  
 センター建設のた  
 めの寄付金活動も  
 行われました。

六月二十五日、秋田市大協大町  
 ビルにおいて秋田支部総会が開催  
 されました。

同窓生十九名、教員九名が参加  
 し、大学の近況  
 報告を聞いたの  
 ちビンゴやカラ  
 オケで楽しい時  
 間をすごしまし  
 ました。来年度はさ  
 らに多くの参加  
 を心よりお待ち  
 しております。

# 建築工学科 拓北会

## 建築工学科のIT化に対する 取り組み

昨年度、建築工学科ではIT・CAD教育を考慮した建築工学科の改修として、二階製図室を改修しました。さらにIT・CAD教育を進めるため今年度カリキュラムよりIT・CAD化を考慮したカリキュラム編成とし、パソコンを用いるカリキュラムを大幅に増やしました。これに合わせて来年度より建築工学科ではノートパソコンの必携化を行うこととし、今年度は希望する学生にパソコンを斡旋しました。

こうしたノートパソコンを用いた授業を行うため、また学生が空き時間に自由にパソコンを利用できるように、建築工学科ではITルームを整備しました。ITルームは多目的に利用できるように可動式の椅子・机とし、各机にはノートパソコンを利用できるように電源コンセントを用意しました。またインターネット接続のため無線LANや自由に利用できるカラープリンタも整備しています。これによって同時に約百人が同時にインターネットに接続することやレポートやホームページを印刷することが可能です。

IT化するにあたり教室の整



備、LAN整備だけではなく、ウイルス対策用のソフトウェアも建築工学科で用意し、学科に所属する四年の間は無償で学生がウイルス対策ソフトを利用できるようにしました。これからのコンピュータの利用にはこうしたウイルス対策なども重要であると考えています。こうした整備によって建築工学科では今年度からスタートしたカリキュラムよりノートパソコンのセットアップやソフトウェアのインストールなど、自分の道具としてパソコンを使いこなすための授業を行っています。設計製図教育の中でも図学とCADを組み合わせた授業を行い、学生の興味を引き出しています。学生の作品は建築工学科のホー

ムページ (<http://www.archi.hi-tech.ac.jp/>) に掲載してありますので、ぜひともご覧下さい。後期にも製図とCADを組み合わせた授業を行う予定となっております。

授業以外の時間でも学生が各自ノートパソコンを持ち込み、課題などでITルームを使っている姿が見られます。今後も建築工学科ではIT・CAD教育を進めてゆけるよう、様々な整備を行う予定です。

### ■ 退職教員の挨拶 伊藤敬一 教授



私は今年の三月三十一日をもって八戸工業大学を退職しました。

昨年の四月に体の不調で緊急入院、検査で心筋症と診断されました。心臓の働きが慢性的に弱くなっており、無理の利かない体になっていくとのことでもまったく予期せぬものでした。後期から全面的に復帰しましたが、体も気力も思うようにならずこのままではまたと考え、年齢もちょうど六十、思い切って退職を決心しました。一九七八年に赴任してから二十七年を数え、この間多くの学生諸君と出会い、貴重な時間を過ごしてきました。私の大切な財産となりました。この場を御借りして心からお礼を述べたいと思います。今

後は、仙台に居を構え新しい生活をマイペースで送っていくつもりです。今年四月からは大学院生の指導のため非常勤講師として月に一週間くらい大学に行っています。ここ数年関心を抱いている木構法の勉強を若い友人たちと一緒にやっつけていこうと張り切っています。同窓生の皆さん、お元気で、さようなら。

### 高島成侑 教授



わたくし、二十九年間という長いこととめておりました本学を、九月十五日(木)をもって退職することになりました。体の調子が思わしくなくて、病院に通いながら勤務でしたが、どうしようも無いことでした。長いこと、多くの学生に接していきまして、彼らと行った卒研のための調査のことなどがおもいだされます。どれもこれもみな、けっして忘れられない、すばらしいことでした。

建築工学科は、これからJABE Eを受け、ますます魅力ある学科として成長してゆくところであります。その途中で、辞めなければならぬ気持ちには分かってもらえないと思います。同窓生の皆様も、健康が第一です。体には十分に気をつけて、本学のために働いてくださるようお願いいたします。最後に、八戸工業

大学のますますの発展を祈っております。

### ■ 新任教員の挨拶 石川宏之 講師



近年、都市や農村では市街地の空洞化や過疎化、少子高齢化

など様々な地域課題を抱えています。その様な状況において持続可能な地域社会を実現するための手法としてまち全体をミュージアムに見立て、自然や文化・産業などの地域遺産を総合的に管理運営していくエコミュージアムが注目されている。エコミュージアムとは、一九六〇年代後半にフランスで発祥し、住民参加による地域遺産を活かしながら地域振興を進める運動体です。これまでに私は、フランスやイギリスにおける実地調査の成果を、日本各地のエコミュージアム事業の推進に活かしてきました。

八戸工業大学着任後では、一市民として八戸市博物館協議会や八戸市役所による中心市街地活性化のワークショップに学生と一緒に参加しています。今後は、八戸市中心市街地の活性化を図るために市民・行政・大学が協働して地域資源を活かしたまちづくりを実践して、実地調査に重きを置きながらこれらの研究成果を大学教育に活かしていきたいと考えています。

# エネルギー工学科 OB会通信

着任のご挨拶 貝守 昇 助教授



この四月に生物環境化学工学科（エネルギー工学科を改組）に配属になりました。

したので、この場をお借りして挨拶をさせていただきます。生物環境化学工学科は、時代にマッチした学科だと思っています。それは環境問題が、人類の大きな課題となっており、今後、一層深刻化することは誰の目にも明らかであるからです。これは、生物環境化学工学科の発展に、大きな追い風となることは間違いありません。私の専門は、生物学で、最初は植物を研究しましたが、現在は動物の研究をしています。したがって環境問題に生物学の立場から貢献できるものと考えます。私は、環境問題の中でも「生物種の多様性の消失」に関心をもち、これに関する教育と研究をしています。今、多くの生物が絶滅の危機に瀕しており、毎日、いくつもの種が絶滅していると言われています。地球上から生物種が減少して、半分の種になったとしたら、現在の安定した地球環境は維持できるのか？生物界のバランスが崩れたら何が起ると予想されるのか？これに

対する答えはかなり深刻です。それゆえ、「生物種の多様性の維持」

は「持続ある発展の基盤」である認識され、地球温暖化と並ぶ重大な環境問題と認識されるようになってきました。生物学者はかなり前から警告していました。ようやく最近、社会の認識が高まりつつあり、私は大変に喜んでいきます。

私の具体的な研究の一つを紹介します。淡水海綿の芽球（動物の卵、植物の種子に相当）を貯蔵

するための方法を確立することで、淡水海綿は湖沼や川に生息して

いますが、水が汚れてきたので、絶滅し始めています。そこで、この海綿を保存するため、芽球を液体窒素に保存することを試みてい

ます。液体窒素中では半永久的に保存できるので、必要なときに取り出して大きく育て、研究に使うこともできるし、湖沼に戻すことも可能になります。

はなはだ微力ではありますが、全力で教育・研究に取り組む覚悟です。

「技道」の教員として  
広住 仁（十一期生）

八戸市立白銀中学校教員

自分は在学当時は教員になることをあまり考えていませんでした。しかし、大学生活中に教育に

ついて悩むことがありました。それは種差少年自然の家でのボランティア活動での出来事です。『親子のつどい』というものがあって、親子で竹細工などを作ることがあり、自分はその指導をしていました。すると、「○○ちゃんあぶないから貸さない」と、親が子供の作っているものを横取りして、自分が楽しそうに作り、子供がそれをうらやましそうに見ているという光景を何度も見かけました。

「これでは子供は伸びない。」と思い、親にも子供にも同じ材料をもいいじやないですか、体験させましょうよ。」と親を説得し、活動させました。親も子供もとても楽しそうに作り、一緒に遊ぶ姿を見て、「こういう体験を大人が子供たちから奪っているのかもしれない。体験をもっとさせなければ子供たちは何も知らないで大人になってしまおう。」と体験的な学習の大切さについて考えることが多くなりました。

体験的学習をさせてみたいと中学校の教員となり、最初に赴任したのは南郷村立中沢中学校でした。自分が最初に影響を受けたのは生徒よりも、ものすごく個性的でバリバリと働く先生方でした。

「高専でやっているようなロボットのコンテストを中学校でやってみたいのです！」と断られるだろうと思いつつも校長に話したら、

「いいよ！八戸市の中学校でやっている有名な下山先生もいるから詳しくは彼に聞けばいい。」と、簡単に了解してくれたのです。

この太っ腹な（？）校長先生を筆頭に、村の小さな学校のサッカー部を県大会優勝に導いてしまった先生などすごい先生だらけのため、生徒もとても生き生きしていました。先生っていいなあと思っただけです。

その学校で、自分も丸太から椅子を作らせたり、コンピュータ室にPC-8001FX (MS-DOSマシン) しかないのにHTMLを学習させ、頭の中の想像で学校のホームページを作らせたり、ロボットコンテスト（ロボコン）を三年最後の授業で行ったりと、無茶で体験的な授業をやっていたものでした。生徒たちもそんな無茶な技術の授業を楽しんでくれました。

そして生徒や先生に支えられ今の自分があります。中学校ロボコンで全国に知れ渡るほど有名な下山先生と一緒に、いろいろな大会を見て回っています。そのためかロボコン全国大会のA部門のルールなども自分が決めることになりました。

また、二年前に八戸市で国際ジュニアロボコンという行事を行いました。国内の中学生と国外の中学生が一週間泊まり込みでロボットを作り、大会を行うというものです。ロボットを一緒に作る

間に生徒は劇的に成長し、コミュニケーション能力が向上し、一週間後には外国人の生徒と別れるときに抱き合って泣いてしまうほど感動できる大会でした。

その感動をまた呼び起こしたいと今年は三重大学が主催で、鈴鹿市で国際ジュニアロボコンを行いました。自分は裏方として参加しました。最初、生徒たちはものすごく緊張していて、コミュニケーションなんて全くなかったのですが、どうなることかと思いましたが、一週間後にはやはり涙が止まらないほど感動的なファイナールを迎えることができました。

人は「ものづくり」からいろいろなことを学ぶことができま

す。ものをつくる知識・技術であり、一緒につくっている仲間との協力であったり、ものの大切さであったり、ゴミ問題であったり・・・ロボコン創始者である東京工業大学名誉教授の森政弘先生が、「中学校のものづくりは「技術」ではなく「技道」である」と言うほど、中学校のものづくりから、より豊かな人間の生き方を求めることすらできると自分も考えます。自分は「技術」の教員を超えた「技道」の教師として、生徒とともにこの道をさらに進んでいきたいと考えています。

※種差少年自然の家のボランティア、ロボコン教員仲間ともに募集

# 環境建設工学科 シビル会通信

## ■ 学科長新任の御挨拶 環境建設工学科長・教授 福士憲一



卒業生の皆さん、御無沙汰していましたが、元気に活躍のことと思います。四月より学科長・専攻主任に就任しました。今後ともよろしくお願ひします。以下、御挨拶がたがた学科の近況等を報告します。

**○人事異動**：前学科長の庄谷先生が工学部長・教育研究戦略室長・異分野融合科学研究所長に、教務部長の長谷川先生が感性デザイン学部長にも就任されました。いづれも大学の要職であり、今後ますますの御活躍が期待されています。学科内では竹内先生が教授、阿波先生が助教に昇任され、さらに張り切って仕事をされています。事務職では高橋事務員(前M科)、西田中・宮崎技師(前総合教育センター)が学科所属となりました。なお、今年度より総合教育センターは廃止となり、教員は各学科所属となりました。C科には小林教授(独語)、柄本講師(体育)をお迎えしています。  
**○JABEE継続認定**：平成十四年度から土木分野で日本初の認定

を受けていましたが、竹内先生ほかの奮闘によりこの五月に認定継続を勝ち取りました。昨年度の間審査に合格したものです。これで平成十四～十八年度卒業生はJABEE認定修了生として、申請すれば技術士補(技術士一次試験免除)になります。平成十三年以前卒の卒業生には申し訳ありませんが、制度がそのようになっていきますので御了承ください。

なお、北海道・東北の私学で土木分野のJABEE認定を受けているのは、依然として我が学科のみです。東北の国立大を入れても秋田大学土木環境工学科と我が学科のみで、学科の教育プログラムがいかに充実しているかを示しています。詳細については大学ホームページ(<http://www.hi-tech.ac.jp>)を是非御覧ください。  
**○「美しく豊かで安全な社会をつくる」** JABEE認定、教育力と研究力の環境建設工学科：学科の新キヤッチフレーズです。社会は今、環境問題、少子高齢化、災害多発に悩んでいます。また、東北では未だ社会基盤施設が不足しており、環境保全をしつつ問題を解決する必要があります。現状を単に憂えるだけでは問題は解決しません。いかにして真に美しく

豊かで安全な社会をつくるのか、これが学科のテーマです。

このテーマのもと、今年度から新カリキュラムをスタートさせ、教育力と研究力のC科、人間力と就職力を育むC科という目標を持ち、様々に工夫した教育・研究を推進しています。学科創設二十九年で博士十二名、修士六十九名、学士二千七百三名を輩出し、卒業生は環境建設・土木の最前線で活躍をしています。また、女子も活躍できる学科として、現在も五名の女子学生が在籍しています。

最近、小生が関係しているだけでも、八甲田トンネルほかの新幹線工事、青森・岩手県境産廃不法投棄現場の回復事業など、各所で卒業生が多数活躍しています。特に、不法投棄現場では五名以上の卒業生が活躍しており、「同窓会田子クラブ」立ち上げの話までになっています。卒業生が大小を問わず社会に貢献する姿には非常に頼もしいものがあります。皆さん、どこで誰と会うかわかりませんが、現場のヘルメットに「HIT」と書いたテープをこっそり貼ってみるのもいかがでしょうか。  
**■ 土木学会「特別上級技術者」に認定**

地盤・基礎分野で「特別上級技術者」に認定されました。

塩井教授が認定を受けたこの制度は、土木学会が「倫理観と専門的能力のある土木技術者を評価し、社会に責任をもって明示すること」を目的に、二〇〇一年度から実施している認定制度で、能力別に四つの資格(特別上級技術者、上級技術者、一級技術者および二級技術者)を設け、その技術者を保証するものです。「特別上級技術者」はその最上位のもので、認定されるには「日本を代表する土木技術者として、土木技術に関する広範囲な総合的知見を有するか、あるいは極めて高度な専門知識と経験を有すること」が求められ、経験十七年又は技術士取得五年以上に加え土木学会フェロー会員であることが要件となっています。二〇〇四年度の同分野の認定者は、全国でわずか六名でした。東北地区の大学で「特別上級技術者」に認定された研究者は塩井教授のほか数名のみで、本学にとつて大変名誉なことでもあります。

なお、大学卒業程度の資格である二級技術者は、全国二十九の会場で試験が実施され、八戸市も会場の一つとなっています。興味のある卒業生諸君は是非受験してみて下さい。なお受験に関する詳細は土木学会ホームページ(<http://www.jace.or.jp/>)をご覧ください。

## ■ 杉田修一先生の 最終講義と送る会

先に発行された同窓会報にもありますように、杉田修一先生が本年三月をもって退職されました。それにともない、先生の最終講義と送る会が平成十七年二月二十六日(土)、八戸プラザホテルを会場に開催されました。会は環境建設工学科とシビル会(土木同窓会)との共催で実施され、大学関係者約三十名を初め、五十名を越える多くの卒業生も参加しました。最終講義は、「最近十年の想い」皆様へ感謝を込めて」と題してご講演され、これまでの長年の社会、教育、研究における活動の一端を述べられ、これから私たちが技術者あるいは、教育者、研究者として進む方向を示唆した内容でした。引き続き行われた送る会では、先生を懐かしむ多くの卒業生に囲まれながら、終始和やかに進み、二次会まで大いに盛り

環境建設工学科(異分野融合科学研究所)の塩井幸武教授が「土木学会認定技術者制度」二〇〇四年度



環境建設工学科(異分野融合科学研究所)の塩井幸武教授が「土木学会認定技術者制度」二〇〇四年度



八戸工業大学教授 杉田修一先生 最終講義と送る会

上がりました。

同窓会としても、先生の長年の活躍と、本学の教育研究活動へのご尽力に対し厚く感謝申し上げます。今後とも機会があれば、ぜひ気軽に同窓会に参加して下さい

# 機械情報技術学科 蒼峰会だより

## ご挨拶

青木秀敏



同窓生の皆様  
お元気でご活躍  
のことと存じま  
す。二年前から  
機械情報技術学

科の学生指導と研究にあたってお  
ります青木です。よろしくお願  
いします。その前はエネルギー工  
科におりました。機械におられた  
高橋燦吉先生は四年間エネルギー  
工学科の学科長でありましたの  
で、高橋学長先生には、教育研究  
に対し化学工学の大先輩として、  
当時から現在にわたって陰に陽に  
ご指導を頂いております。ここで  
は、同窓生にとってなつかしい機  
械工学科の古い先生方の想い出話  
を書いて、挨拶に代えさせて頂き  
ます。

学長をされた淵澤定敏先生は、  
エネルギー工学科の初代主任教授  
兼任でありましたので、公私に渡  
りお世話になりました。開設前に、  
実証型太陽熱利用システムが設置  
されておりました。開設前に、  
先生は長らく事務局を担当しま  
した。先生の部屋には学生が提出  
したボイラーの設計図面が山積み  
されておりました。ご退職後体調  
崩され入院されておりましたが、平  
成十四年四月にお亡くなりまし  
た。

したボイラーの設計図面が山積み  
されておりました。ご退職後体調  
崩され入院されておりましたが、平  
成十四年四月にお亡くなりまし  
た。

榎川武男先生は、本学ご退職  
後、八戸インテリジェントプラザ  
の所長をなされました。地域産業  
のレベルアップにご努力され、特  
に地元の水産業に対し、素材にい  
ろいろな加工を加えて種々の新製  
品を創成していくことを力説され  
ました。所長退職記念講演では、  
先生は買ってこられた大根やゴボ  
ウ等を手にとり、効率良く切断す  
る刃物と歯車の話をされたお姿が  
目に浮かびます。現在は、青葉城  
下の広瀬川の畔で、お元気で過  
ごしになっておられます。

鈴木幸三先生は、機械学会のほ  
か永年に亘って化学工学会にも所  
属しておられましたので、私は当  
時から何かとご助言を得ておりま  
した。調べてみますと、先生は材  
料力学Ⅰ・Ⅱ、工業力学Ⅰ・Ⅱ、  
工作実習の計十単位の必修と選択  
の材料力学Ⅲと環境安全工学を  
もっておられましたので、卒業生  
はいやでも教室で接する機会が一  
番多かった先生ではなかったかと思  
います。先生ご執筆の教科書(共  
著)三冊を仕事上でお使いでしょ  
うか。これらの教科書は、今でも  
全国大学の工学部の教科書として  
採用されている様子です。現在も  
名誉教授として社会的にご活動さ  
れておられます。



## 蒼峰会幹事会開催

去る五月十三日(金) 全学同窓  
会に先立ち開催された蒼峰会幹事  
会に二十四名が出席し、蒼峰会の  
今年度の計画を話し合いました。  
会長より蒼峰会旗の製作発案が満  
場一致で支持され、そのデザイン  
について熱く議論されました。会  
旗は次回の蒼峰会の集まりでお披  
露目いたします。

## ユアテック社内同窓会設立

七月七日、八戸市の「さざん  
八戸」において、大手電気工事  
会社「株式会社ユアテック」に設  
けられた「ユアテック八戸工業大  
学・高校同窓会」の設立祝賀会が  
開催された。この同窓会は、主に  
東北地方で事業を展開しているユ  
アテック社に勤務する本学と八戸  
工大一高(旧八戸電波工業高校)  
の卒業生六十八名が集まって組織  
したもので、本学の同窓会として  
特定の会社に設けられたのは、こ  
の度が初めてである。設立祝賀会  
には、二十六名の同窓生に加え、  
本学から柳谷透理事長、高橋燦吉  
学長、武田勝彦八戸工大一高教頭  
ら十五名が来賓として出席、ユア  
テックからは西條弘一専務取締役  
ら役員七名が同席し会の設立を祝  
った。挨拶に立った工学部電気工  
学科一期生の山谷清蔵会長が、設  
立までの経緯や今後の活動につい  
て述べ、来賓の柳谷理事長と西條  
専務取締役からお祝いの言葉が述  
べられた。また、高橋学長と武田  
教頭から  
大学と高  
校の近況  
が紹介さ  
れ、同窓  
生達は熱  
心に耳を  
傾けてい  
た。



# システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

## ■第三回うみねこ会開催

昨年に引き続き学園祭の初日にシステム情報工学科同窓会「うみねこ会」を開催します。今年で三年目を迎えますが、毎年数十人の教員・卒業生が集まり旧交を温めています。後日、各年度の幹事より案内状が送付される予定ですので、詳細はそちらをご覧ください。

多くの参加をお待ちしています。  
会場：八戸工業大学 システム情報工学科 2F 非常勤講師控室  
日時：平成十七年十月二十二日（土） 十三時三十分～十四時三十分（予定）

## ■ソフトウェア開発技術者試験に合格

本年度春季の経済産業省認定情報処理技術者試験で、四年生の榎本匡将君と三年生の一戸俊介君がソフトウェア開発技術者試験（旧第一種情報処理技術者試験）に合格しました。

ソフトウェア開発技術者試験は、プログラミングのみならずシステム設計のレベルまで問われる難問で、主に数年の経験を積んだプログラマーやシステムエンジニアが対象となっています。合格することで、情報業界ではエンジニアとして一定の水準に達した者としてみなされます。今回の県



内全体で合格者は十五人で、そのうち大学生は五人でした。ソフトウェア関連の就職が内定している榎本君は「ソフトウェア作りのプロフェッショナルを目指したい」と力強く語っていました。

## ■近況報告

### 上岡晋太郎（平成十四年度卒業）

グッドウイルエンジニアリングへ入社しネットワーク分野の人間として、現在は「Communications」にて就業しています。ComではWANサービス全体の故障情報のマネジメントを行っています。故障が出たときに何のサービスでどの部分が故障で、その先のネットワークはどうかは行けません。日々サービスごとの機器とネットワーク図を勉強する毎日です。本社が六本木ヒルズということもあり最初はかなり緊張していましたが、周りの人たちは優しく、熱い人ばかりなので緊張もすぐにとけました。同僚

には同じシステムの二、三期生の二人も同じ分野として切磋琢磨しています。システム情報、グッドウイルエンジニアリングともに一期生という全てにおいて新しい道を歩んでいます。これからは自分で新たな道を切り開きたいと思っています。

### 岩沼隆之（平成十六年度卒業）

大学院に進学し半年が過ぎようとしています。私は学部のとくとは違う研究室に配属されていますが、先輩に恵まれ研究室の雰囲気は慣れてきました。研究テーマは「Webベースe-Learningシステムに関する研究」ですが、思うように成果が得られず知識、技術不足を痛いほど感じています。しばらくは言語の学習に費やす予定です。これから資格試験の勉強、個人的な活動などにも力を入れ自分を磨いていきたいと思っています。大学院生として残りの一年半を充実させるように努力していきます。頑張ります！

### 栗橋勇太（平成十六年度卒業）

私が八戸信用金庫八戸駅通支店の営業担当となつてから五ヶ月が経とうとしています。金融機関ならではの知識や言葉、そして技術等学ばなければならぬことはたくさんあります。現在の私はそれらを日々の仕事や通信講座などで一つずつ学んでいるところです。現在の目標は、一人でも多くのお客様に自分の名前と顔を覚えてもら

らう、ということですが、それに向けてお客様が来店したら挨拶を一番初めにするように心がけてやっていきたいです。そしていつか、お客様からいろいろ相談してもらえそうな信金の職員になりたいと思っています。

### 津村章大（平成十六年度卒業）

私、東京の神田に本社を構える「ソフトウェア興業」という会社に就職いたしました。弊社では内定を頂いたその年の九月から入社前通信研修という研修システムを導入しており主にC言語の学習を行い、同時に基本情報の取得のための研修も行っております。当時清野教授には大変お世話になりました。今の私がこうしていただけるのも清野教授のおかげだと思います。研修を終え正式なジョブに就いたのは五月からです。私

が就いた仕事は大雑把に言うとう貿易関係の仕事です。仕事柄詳しく話せないのは残念ではありますが、膨大なシステムでありその一部の機能に携わっています。私が就いたときには第一部の製造が終わり始めた頃で、社内での結合テストの段階でテスターとして就きました。しばらくして私は澁刺とした態度を買われテスト実施リーダーに抜擢されました。自分よりも年上の方に指示を出すのは大変でしたが、やり終えたときの安堵感には気持ちの良いものでした。社

はコミュニケーションの大切さと、物事一つ一つに責任を伴うところとです。学生の頃では到底感じる事が出来なかつた事です。早い段階でこの事に気づけた私は幸せ者なのかも知れません。遠い青森から来た学生でも高い評価を得られるように日々精進していく次第であります。

## ■新任の先生からの一言

平成十七年度より小坂谷壽一教授が赴任しました。小坂谷教授は、研究・教育はもちろんバイオリンの演奏なども行えます。



「この四月、日立エンジニアリング(株)から赴任しました小坂谷壽一（こさかやじゅいち）です。珍しい名字と良く言われますが、祖父母は秋田県出身で、現在の本籍は福島県です。八戸に来てから丁度四ヶ月が経ちましたが、企業ではコンピュータを使った遠隔監視制御システムの研究・開発を二十数年間に渡り従事してきました。又、この通信制御技術から派生して、色々なヒューマン・インターフェースの開発（例えば電子楽譜等）にも携わってきました。教職経験は初めてですが、学生と日々発止しながら世の中に役に立つ研究を続けたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。」

# 電子知能システム学科 水交会ニュース

## ■研究室探訪

### 佐藤研究室

同窓生の皆さんお元気ですか。様々な分野で生来の賜物を活かして八戸工業大学の存在を社会に知らせ、活躍のことと思います。私の研究室の最近の状況を紹介します。

戸を訪ねる機会がありましたら、是非、立ち寄って下さい。皆さんの語りを楽しみにしています。

### 川又研究室

卒業生のみなさん、元気に活躍のこととおよろこび申し上げます。小生が八戸に赴任して、早いもので十四年目を迎えました。こゝとわがには「十年一昔」といったものがありますが、高度情報化社会の真つ直中を突つ走る今日、五年あるいは三年程度で「一昔」の感が強いですね。みなさんは、いかがですか？



と願っています。八

さて、先端技術の牽引的役割を担っている「電気・電子・情報工学分野」に携わる我々にとっては、日々、連続した技術的時代変遷の波にもまれながらも、より高性能で便利な機器の開発、より豊かでクリーンなエネルギーの開発および供給、そして、より高速で大量の情報伝達などを実現させて行くことが技術者としての使命であり社会的責任であります。我が研究室におけるEMC環境電磁工学の取り組みは、このような最先端電気電子情報技術を根底で支える重要な学問・技術分野となっており、電磁環境に対する社会の関



心も年々高まってきたりします。皆様も現在従事している各技術分野において、十分に

学生時代は部活以外にラリー活動も行い、当時北里大学とも交流しました。記憶に残るレースは、東北千kmレースで夕方秋田市を出発して明け方福島県の会津若松市到着のレースでゴールした時の満足感忘れられない青春の一ページです。

しました。そして現在、青森県立南部工業高等学校に勤務し、生徒と共に学び、考え、作り、たまに怒りながらの毎日を過ごしております。私が教員を目指すきっかけになったのも、八戸工業大学の充実した環境の中で、ハイレベルな研究テーマを学ぶ事により、たくさんの知識や技術を習得出来た事、また優秀な先生方や、一生付き合える友人達との出会いからでもありました。先日、大学時代の友人達と七、八年ぶりに会う事が出来ました。その席には、同級生の信山先生もいました。ときどき講義の合間に白浜や種差海岸等にみんなで行った話など、楽しい時間を過ごす事が出来ました。友人達は青森県内にとどまらず、全国各地で仕事をしています。さすがに頻りに会う事は出来ませんが、今でも連絡は欠かしていません。

### 昭和三十二年電気工学科卒

山谷 清蔵 さん

### 現在：(株)ユアテック 青森支社 工務部 部長兼発電課長



昭和四十七年入学の第一回生です。当時大学の建物は本館のみでしたので、体育館が無く、体育の授業は本館一階の新聞閲覧室にマットを敷きレスリング等を行っていました。大学に入学して北海道から仙台と幅広い友人が来ました。二年生の五月には友人四名でバイクによる東北一周(佐渡島含む)旅行、夏休みにはホンダCB350の軽自動車で北海道一周旅行が良く思い出です。部活は航空部を設立してプロペラ駆動による四輪車を製作し、大学祭で展示しました。

現在の仕事は、東北電力(株)設備の変電所建設、保守業務および一般工場等の特高受電設備の建設、保守業務を行っています。業務で扱う電圧は、直流二十四Vから交流五百kVまで幅広く、大学で学んだことが非常に仕事に役立っていると思います。当社における八戸工業大学・高校卒業生は約七十人のぼり、母校の各種事業への支援と、同窓生の親睦をはかる目的で、平成十七年七月七日、(株)ユアテック八戸工業大学・高校同窓会を設立しました。当日は大学からご多忙にもかかわらず、柳谷会長はじめ多数のご来賓を賜り大変ありがとうございます。おかげ様で盛況に終えることが出来、感謝申し上げます。

毎年たくさんの教え子達を、八戸工業大学へ入学させていただいております。感謝しているのと同じに、八工大のOBとして、教え子達を非常に頼もしく感じております。これからも、優秀な八戸工業大学卒業生として全国での活躍を期待しています。そういう私もそんなのですが・・・学生の皆さんもやらされている勉強や研究にならないように、自分自身に目標を持ち、大学生生活を有意義に過ごして下さい。

### 平成七年電気工学科卒

玉田 耕 さん

### 現在：青森県立南部工業高等学校 実習講師



私は、大学卒業後青森県立八戸工業高等学校に勤務

しました。そして現在、青森県立南部工業高等学校に勤務し、生徒と共に学び、考え、作り、たまに怒りながらの毎日を過ごしております。私が教員を目指すきっかけになったのも、八戸工業大学の充実した環境の中で、ハイレベルな研究テーマを学ぶ事により、たくさんの知識や技術を習得出来た事、また優秀な先生方や、一生付き合える友人達との出会いからでもありました。先日、大学時代の友人達と七、八年ぶりに会う事が出来ました。その席には、同級生の信山先生もいました。ときどき講義の合間に白浜や種差海岸等にみんなで行った話など、楽しい時間を過ごす事が出来ました。友人達は青森県内にとどまらず、全国各地で仕事をしています。さすがに頻りに会う事は出来ませんが、今でも連絡は欠かしていません。

■ 学科近況報告

藤田研究室に二人の留学生

趙 文輝 (ZHAO WENHUI) さん  
中華人民共和国

瀋陽工業大学助手  
現在：大学院博士後期課程  
電気電子工学専攻在籍



瀋陽工業大学は、一九八八年から八戸工業大学と学術交流しており、私は三人目の留学生として、日本へ派遣されました。二〇〇四年十月に八

鈴木幸三名誉教授  
「瑞宝小綬章」受章



去る四月二十九日、平成十七年度春の叙勲・褒賞受賞者が発表され、本学の元教授・鈴木幸三名誉教授が、永年に亘って教育に貢献されたご功績により、「瑞宝小綬章」を受章されました。

鈴木名誉教授は、昭和二十四年三月、東北大学卒。平成元年四月から平成八年三月まで、本学工学部教授として本学の教育をはじめ地域の発展に尽力されました。平成八年本学名誉教授。専門は、工業力学、材料力学、環境安全工学。今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

戸へ来て、藤田成隆教授の下で、「リモートセンシングによる環境観測」のテーマで研究をしています。中国の東北にある瀋陽は、夏の最高気温は三十八度にも達しますが、冬の最低気温は氷点下三十度です。なんと気温差が七十度もあります。八戸は瀋陽に比べると、夏は暑くないし、冬も寒くなく、暮らしやすいと思います。気候よ

り、周りの皆さんの暖かい心遣いにも、もっと感動しました。これから、自分の選んだ道のために、頑張ります。

同窓生の「ご子女、弟妹」の入学金減免

本学の良き理解者であり最大の支援者である同窓生のご要望のもとに、ご父母の入学時の経済的ご負担を軽減すべく、同窓生のご子女、弟妹を対象に入学金の減免措置を実施しております。

同窓生各位の身近な方に八戸工業大学をお勧めして頂きたく、この減免措置を実施するものであり、是非、ご活用賜りますようお願い申し上げます。

- 対象・同窓生の「ご子女、弟妹」
- 減免額・十七万五千元

お問い合わせ先・・・入試課  
アドミッション・オフィス  
電話 〇一七八―二五一八〇〇〇  
(直通)

李 錦 (LI JIN) さん

中華人民共和国 新疆大学講師

現在：大学院博士後期課程  
電気電子工学専攻在籍



私は、中国新疆ウイグル自治区の首都、ウルムチから来た留学生です。日本に来る前は少し不安でした。進学以来、八戸工業大学の先生や職員の方々がいるいるな面で私に至れり尽くせりのご配慮とご援助を下さり、常に私を励まして下さいま

■新学部「感性デザイン学部」誕生

今春、誕生した感性デザイン学部感性デザイン学科は、全国の大学で初めての学部です。

近年の高度化・複雑化した社会においては、優れた工業技術を開発する同時に、人々が本当に求めていることを探し出し、これを工業技術と結びつける役割を果たす人が必要になっていきます。人々が求めていることを理解するためには、高いコミュニケーション能力、すなわち人の話を聞き、自分の考えをしっかりと伝える能力が求められます。福祉や環境に優しい社会づくりには、幅広い教養と、人々の心を理解し、これを具

体化できる力を有する人材育成が課題となっています。これに応えるのが感性デザイン学部です。感性デザインとは、「人を理解し、

す。お陰でこの留学生生活にとっても早く慣れることができました。留学期間に、藤田教授の下で研究し、必ず良好な成績を得て、皆様から頂いたご援助に報いたいので、八戸工業大学と新疆大学、日本と中国の友好交流をより促進するために今後とも努力していきたいと思います。

思いやり、その心を創造的に伝えること」です。伝えるものには、カタチをなすことも、企画や立案も含まれます。このため、情報機器による表現力としてCAD&CG学習、言語によるコミュニケーション学習、海外研修を通じた国際コミュニケーション研修、健康・福祉・生活に関する基礎的知識と実習そしてデザインなど多岐にわたる教育が行われ、二十一世紀の豊かな地域社会づくりに活躍できる人材を育成します。ご期待ください。

八戸工業大学地域情報メディアセンター

建設に向けてなお一層のご理解、ご協力を

「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位から、貴重な厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございます。この事業を実現のためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠であります。今後とも何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 高橋 燦吉  
同窓会会長 白川 直人

同窓会事務局の連絡先 (各種連絡先としてご利用ください)

| 事務局名                                 | TEL                    | E-mail                  |
|--------------------------------------|------------------------|-------------------------|
| 本部事務局<br>(学生部学生課)                    | 0178-25-8027           | dosokai@hi-tech.ac.jp   |
| 機械・産業機械工学科<br>(機械情報技術学科事務室)          | 0178-25-8010           | dosokai-m@hi-tech.ac.jp |
| 電気工学科<br>(電気電子工学科, 電子知能システム学科事務室)    | 0178-25-8020           | dosokai-e@hi-tech.ac.jp |
| 土木工学科<br>(シビル会事務局)                   | 0178-25-8058<br>(8030) | dosokai-c@hi-tech.ac.jp |
| 建築工学科<br>(建築工学科事務室)                  | 0178-25-8040           | dosokai-a@hi-tech.ac.jp |
| エネルギー工学科<br>(エネルギー工学科, 生物環境化学工学科事務室) | 0178-25-8050           | dosokai-p@hi-tech.ac.jp |
| システム情報工学科<br>(システム情報工学科事務室)          | 0178-25-8080           | dosokai-i@hi-tech.ac.jp |